

令和2年度
横須賀美術館 運営評価報告書
(一次評価)

令和3年(2021年)6月

横須賀市教育委員会

美術館運営課

<新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館について>

国内で感染経路が不明な新型コロナウイルス感染症患者が発生したことから、感染症対策を一層推進するとともに、市民に正確な情報を提供するため、令和2年2月17日、横須賀市に新型コロナウイルス感染症対策本部が設置されました。

そして、市内での患者の発生を極力、抑止するため、新型コロナウイルス感染症対策本部の指示により、横須賀美術館においても、令和2年3月4日から6月19日まで、令和3年1月12日から3月7日までの2回の期間、臨時休館となりました。

<一次評価について>

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの事業の中止を余儀なくされました。したがって、一次評価にあたっては、横須賀美術館として、次のような評価方針のもと、一次評価を実施しました。

1 年間を通じた数量で評価するもの ⇒ F判定

- ①【達成目標】年間観覧者数 110,000 人以上
- ②【達成目標】市民ボランティア協働事業への参加者数延べ 2,400 人
- ④【達成目標】中学生以下の年間観覧者数 22,000 人
- ⑦【達成目標】福祉関連事業への参加者数延べ 320 人以上
- ⑧【達成目標】電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近3年間の
平均値を目安とする。

2 アンケート結果で判断するもの ⇒ 取得できたアンケート結果をもとに判定

- ③【達成目標】企画展の満足度 80 %以上
- ⑥【達成目標】館内アメニティ満足度 90 %以上
スタッフ対応の満足度 80 %以上

3 年間を通じた活動実績で評価するもの

上記以外

I 美術を通じた交流を促進する

① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

[一次評価]

達成目標	実施目標
F	A

【達成目標】年間観覧者数 110,000 人以上

[目標設定の理由]

- ・「横須賀市立美術館基本計画」（平成12年6月策定）では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などから年間観覧者数を10万人と推定し、年間観覧者数の目標としてきましたが、近年の観覧者数（平成29年度～令和元年度）は、いずれも11万人を超えています。
- ・そのような状況を踏まえ、令和2年度から達成目標の数値を10万人から11万人に引き上げました。
- ・観覧者の見込み数は、展覧会ごとの開催時期や過去に開催したターゲットの近い展覧会の実績などを勘案し算定しています。

[一次評価の理由]

- ・年間観覧者数110,000人という目標設定に対し実績は、48,827人となり、達成率44.4%と目標を下回りました。コロナ禍で多くのお客様の来館が見込まれる時期の多くが臨時休館、または企画展が開催されない状況であったことから1年をとおした評価ができないと考え「F」評価としました。

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
観覧者数	118,370人	111,431人	151,431人	48,827人

	展覧会名	会期	見込(人)	実績(人)	達成率(%)
企 画 展	宇都宮美術館コレクションによるマルク・シャガール展※1	4/25-6/21	19,000	0	0
	ミロコマチコ展 ※1	7/4-8/30	32,000	0	0
	上田薫展	9/11-11/3	20,000	17,441	87.2
	倉重・天野展	11/14-12/25	7,000	7,143	102.0
	第73回児童生徒造形作品展 ※2	1/9-1/25	13,000	6,893	53.0
	ヒコーキと美術展 ※2	2/6-4/11	13,000	7,334	56.4
	所蔵品展のみの期間	上記以外	6,000	13,395	223.3
	計		110,000	52,206	47.5

※1 2020年3月4日から6月19日まで臨時休館。その後、再開館したが「宇都宮美術館コレクションによるマルク・シャガール展」「ミロコマチコ展」は開催せず、同期間は所蔵品展のみの開催となった。

※2 2021年1月12日から3月7日まで臨時休館。

【実施目標】

- ・様々な広報媒体の特性を活かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。
- ・各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。
- ・外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。
- ・旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。
- ・美術館のイメージアップにつながるようなTV放送、雑誌取材、プロモーションビデオ撮影などの商業撮影、取材を受入れる。様々な広報媒体の特性を活かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。

[目標設定の理由]

- ・横須賀美術館は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市の観光立市の推進という観点からも重要になります。市内外に積極的に情報を発信して広い層に魅力をアピールすることで知名度や認知度を向上させていくことが必要と考え、実施目標として設定します。
- ・広報、パブリシティ活動にあたっては、当館の利用者層や展覧会ごとのターゲット層に応じた効果的な広報を実施します。
- ・そのために、様々な広報媒体をその特性を踏まえて効果的に活用し、特に若い世代に対しては積極的にツイッターなどのSNSを活用していきます。

[一次評価の理由]

- ・観覧者数は減少したものの、「ウェブで楽しむ横須賀美術館」「あつまれ！どうぶつの森」での所蔵作品の公開など、コロナ禍の中で新しい取り組みを行ったこと、また、ツイッターのフォロワー数が前年に比べさらに増加し12,482人（2021年3月31日現在）となったことから、「A」評価としました。

《広報・集客促進事業》

展覧会、イベント、ロケーションなど横須賀美術館の魅力をフル活用し、横須賀の交流拠点として集客に取り組んでいきます。そのために、企画展情報だけでなく、美術館の総合的な魅力や外部との連携による地域情報を積極的に発信していきます。

(1) 訴求活動による集客促進

- ・パブリシティを期待した新聞、雑誌等への展覧会リリース
- ・新聞、雑誌等の無料での情報掲載数は302件となり、目標の220件の1.37倍を上回る数字を達成することができました。

(単位：件)

媒体	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
新聞	131	183	136	99
雑誌	65	45	29	32
Web	4	29	54	57
フリーペーパー	22	39	34	60
書籍	2	1	0	10
会報誌	0	2	0	0
TV	13	17	22	13
ラジオ	10	4	4	8
その他	4	0	0	23
合計	251	320	279	302

- ・広報よこすか等他部局の広報媒体を活用した情報発信
⇒毎月の広報よこすかへの展覧会情報、美術館のイベント等の掲載
- ・公共交通機関への広告掲出
⇒京浜急行線 駅貼り（2週間）3回
※ 上田薫展、倉重・天野展、ヒコーキと美術展で実施
- ・SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラム）による有料広告
⇒倉重・天野展、ヒコーキと美術展で実施
- ・美術系雑誌やタウン紙等、有料での情報掲載
⇒新聞、タウン紙、雑誌等での広告
版画芸術（倉重・天野展）、はまかぜ新聞（倉重・天野展）
雑誌「丸」（ヒコーキと美術展）

- ・ホームページ、ツイッター、フェイスブック、インスタグラムを活用した情報発信
⇒ホームページは随時更新しています。
⇒美術館公式ツイッターの運用状況
フォロワー数は12,482人で昨年度末10,794人より約1,688人増加しました。

【参考】2021年3月31日現在 フォロワー：12,482人、ツイート：5,594回

※ ツイッターは平成24年9月29日より運用開始

⇒フェイスブックの運用状況

(運用開始:谷内六郎館 平成27年7月31日～、横須賀美術館9月9日～)

横須賀美術館：3,127「いいね!」、谷内六郎館：420「いいね!」

⇒インスタグラムの運用状況

(運用開始：令和3年3月4日)

フォロワー：341人、投稿42回(2021年3月31日現在)

SNS毎の特性を活かした情報発信に努めていきます。

(2) イベント開催など展覧会以外の要因で利用者を増やす取り組みの推進

- ・コンサート等、各種イベントの開催

公開日	イベント名	視聴者
12/18	クリスマスアンドハッピーホリデーコンサート	1,304人

- ・「ウェブで楽しむ横須賀美術館」(オンラインコンテンツ)の公開
- ・ニンテンドースイッチ「あつまれ!どうぶつの森」への所蔵作品の公開

(3) 外部連携の推進

①他部局との連携

- ・企画調整課と連携した「横須賀野菜」の情報発信
⇒東急東横線 窓上(1ヶ月)1回
- ・観光課「サイクルスタンプラリー」「横須賀フォトコンテスト」への協賛
- ・都市戦略課「オンライン市民ワークショップ」への協賛
- ・米海軍横須賀基地在住者の誘致
⇒What's New in Yokosuka(市ホームページ内外国人住民向け情報ページ)への展覧会情報の掲載
外国人観覧者数(H28年度から集計)

	西洋系	東洋系	その他	計
H28年度	812人	598人	15人	1,425人
H29年度	712人	694人	55人	1,461人
H30年度	676人	843人	93人	1,612人
R1年度	588人	963人	102人	1,650人
R2年度	243人	486人	30人	759人

- ・ふるさと納税へ商品提供
⇒観覧券+レストランアクアマレー食事券の提供

②民間事業者との連携

- ・民間事業者との広報協力、イベント参加による情報発信

⇒タイアップメニュー（アクアマレー）

⇒広報協力（観音崎京急ホテル、ソレイユの丘、うらり、すかなごっそ ほか）

⇒各種学園祭等のイベント協力によるPR（実践女子大学、慶応義塾大学の2校）

⇒サンフジ企画、横須賀市観光協会への協賛

- ・福利厚生団体等との割引施設契約の実施

⇒JAF、JTBベネフィット、リロクラブ、神奈川県厚生福利振興会

神奈川県市町村職員共済組合 など

- ・京浜急行電鉄「よこすか満喫きっぷ」「三浦半島まるごときっぷ」への参加

種類／年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
よこすか	2,350人	3,720人	595人
三浦半島	-	-	2人

※「よこすか満喫きっぷ」はH29年7月、「三浦半島まるごときっぷ」はR2年10月参加

③近隣地域との連携

- ・町内清掃、防犯パトロールなど地域活動への参加

⇒例年参加しているが、コロナ禍のため令和2年度は参加なし

- ・観音崎全体の魅力を向上させるためのイベントの開催

⇒例年参加しているが、コロナ禍のため令和2年度は中止

- ・地域での消費活動を促進する取り組みの検討

⇒タイアップメニューの実施

併設レストランアクアマレーで企画展ごとに実施

(4) 団体集客の推進

例年、団体集客の誘致やウェルカムトークなどを行っているが、令和2年度はコロナ禍のため、団体の来館はほとんどなく、営業活動等も行わなかった。

【参考：例年行っていること】

- ・市内民間事業者と連携した旅行会社への団体ツアーの企画提案、誘致

- ・ウェルカムトークの実施

	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数
募集型	11	393	18	549	5	154	2	44
その他	103	4,039	134	5,300	112	4,435	7	281
計	114	4,432	152	5,849	117	4,589	9	325

(5) 商業撮影の受入と誘致

- ・イメージアップと認知度の向上を目的に商業撮影を受け入れた。

⇒新型コロナウイルス感染症予防対策のため、受入を一時中断し、5件にとどまった。(スチール3件、動画2件)

年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
撮影件数	34 件	37 件	9件	5件
使用料	1,484,741 円	2,134,645 円	323,476 円	206,109 円

② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
F	F

【達成目標】 市民ボランティア協働事業への参加者数 延べ 2,400 人
(事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して)

〔目標設定の理由〕

- ・活動者数および協働事業への参加者数は、「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための指標のひとつとなるものです。
- ・令和2年度は、ギャラリートークボランティアの募集を行わないため、館主導による研修は行いません。その代わりに、ボランティア同士が話し合い、研修内容を決めていく自主研修を行い、学芸員はサポートに回ります。そのため、活動回数は、令和元年度よりも少なくなります。

＊ギャラリートークボランティア登録者数 19名（令和2年3月末時点）

- ・小学生美術鑑賞会ボランティアについては、令和元年とほぼ同等となる予定です。

＊小学生美術鑑賞会ボランティア登録者数 21名（令和2年3月末時点）

- ・みんなのアトリエボランティアの登録者数は増加しています。以前は1回の活動につき2～3名と定員を設けていましたが、昨年度より申し出があれば参加できるようにしています。

＊みんなのアトリエボランティア登録者数 11名（令和2年3月末時点）

- ・プロジェクトボランティアの活動については、令和元年度と同等となる予定です。

＊プロジェクトボランティア登録者数 17名（令和2年3月末時点）

- ・年間の活動日数、ボランティアの参加状況、イベント参加者数の動向をふまえ、令和2年度の目標は、延べ2,400人とします。

〔一次評価の理由〕

- ・令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ボランティアが関わるすべての事業を中止した結果、事業の参加者は0となっています。事業が行われていないため、判定不能としてF評価としました。

市民ボランティア協働事業への延べ参加者数

(単位：人)

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
ギャラリートークボランティア	338	433	345	中止
小学生美術鑑賞会ボランティア	197	269	302	中止
みんなのアトリエボランティア	21	39	38	中止
プロジェクトボランティア ※	272	229	182	中止
プロジェクト当日ボランティア	49	26	30	中止
小計	877	996	897	0
ギャラリートーク参加者	453	656	403	0
ボランティアイベント参加者	1,363	855	1,308	0
小計	1,816	1,511	1,711	0
計	2,693	2,507	2,608	0

※イベントは全て中止しましたが、代替として「すかび隊 presents おうちでできる～」シリーズ 11 本を年度内にオンラインで公開しました。

【実施目標】

- ・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。
- ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。

[目標設定の理由]

- ・市民感覚を持ったボランティアと協働することにより、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。また、美術館への親しみ、愛着を持ったボランティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。
- ・横須賀美術館のボランティア活動は労働ではなく、美術館が担うべき社会教育の一環です。ボランティアがそれぞれの創意と経験を活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そして、やがてそれが地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。
- ・ボランティア活動がより広がるよう努めていきます。例えば、ギャラリートークボランティアの活動の周知や、小学生美術鑑賞会ボランティアやみんなのアトリエボランティアのように、美術館主体の事業に関わっている活動の充実などを検討していきます。

[一次評価の理由]

活動休止が長期化するなか、ボランティアからは再開を求める声が多く聞かれましたが、再開が叶いませんでしたのでF評価としました。

活動再開の見込みが立たない状況下、今後に向けて、新たな活動の方向性を探っています。プロジェクトボランティアのグループは、これまでの活動をもとにしたオンラインコンテンツ「すかび隊 presents おうちでできる～」シリーズを制作し、令和2年度中に11本をオンラインで公開したことは、活動維持という面でも重要な意味があったと捉えています。

Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める

③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	B

【達成目標】企画展の満足度 80%以上*

〔目標設定の理由〕

- ・ 展覧会を企画・実施することは、美術館にとって基本的な活動のひとつであり、中でも、企画展は、波及効果が高く、最も力を注ぐべき事業といえます。こうした認識から、企画展に対する来館者の満足度を、美術館の社会教育機能の高さを示す目安としました。
- ・ 満足度は来館者へのアンケートによって算出しており、同じ方法の調査を継続的に行っています。「作品」「観覧料」「配置・見やすさ」「解説・順路」「心的充足」「総合」の各項目について調査し、「総合」の満足度を指標としています。
- ・ ここ数年の数値の変化の経緯を総合的に判断し、目標を80%以上としました。

※ なお、年度ごとの「企画展満足度」を算出する際には、それぞれの企画展の観覧者数の比率を反映させています。企画展Aの観覧者数をA（人）、企画展Aの満足度をa（％）とするとき、年度ごとの満足度（％）は
$$(A a + B b + C c + D d + E e + F f) / (A + B + C + D + E + F)$$
で表します。

〔一次評価の理由〕

目標の「80%以上」を超える 90.0%という数値となりました。

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
企画展満足度	89.6%	87.4%	90.0%	90.0%

企画展別にみると、「マルク・シャガール展」「ミロコマチコ展」はコロナの影響のため、昨年度は開催いたしませんでした。

「上田薫展」はリアルな絵画で知られる上田薫（1928～）による1970年代から最新作までの歩みを追った大規模個展でした。「作品」が96.9%、「配置・見やすさ・順路」「心的充足」が92.1%、と高い数値で、総合も95.3%でした。

「倉重光則＋天野純治展」は、人工的な光による空間をつくりあげる倉重光則

(1946-)と、シルクスクリーンの版を用いて「色彩の物質化」としての絵画を手掛ける天野純治(1949-)による二人展でした。「配置・見やすさ・順路」は81.9%、「作品」は81.4%と80%を超えましたが、「解説」は72.3%とやや低い数値となりました。

「ヒコーキと美術」は、飛行機の登場がもたらした光と影について、美術の視点から考察した展覧会でした。展覧会半ばまで臨時休館でありアンケートの母数自体は小さいものでした。「作品」は91.9%、「心的充足」については87.3%と高い数値が出ましたが、「解説」は76.1%となりました。

毎年恒例となっている「児童生徒造形作品展」は、昨年度は3日間のみで開催となりました。観覧者の多くは出品された子どもたちの関係者であり、内容を批判する要素に乏しいことから、他の企画展と満足度を比較するには注意が必要ですが、総合的に86.4%と高い満足度を示しています。

各項目についての満足度を見ていくと、企画展では「作品」「配置・見やすさ・順路」の数値が高いです。一方「解説」については数値のばらつきがみられ、観覧者の求めている内容とのずれがあることが考えられます。

令和2年度は、2本の企画展が中止となり、1本は会期3日間で終了してしまいました。しかし、開催した企画展の満足度は概して高かったため、達成目標をAとしました。

【実施目標】

- ・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回(児童生徒造形作品展を含む)の企画展を開催する。
- ・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。
- ・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。
- ・美術への興味や関心が深まる美術関連の資料(図書、カタログ等)を、図書室で収集・整理・保管・公開する。
- ・資料が探しやすく、快適に利用できる図書室環境を維持する。
- ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。

[目標設定の理由]

社会教育機関としての美術館は、常に知的好奇心を満足させる事業を行い、また、そのための環境を整えていかななくてはなりません。美術として扱うべき領域はとても広く、利用者の幅広い興味に応えるためには、所蔵品展以外にもさまざまなテーマを設けた企画展を開催する必要があります。作品の借用が許される期間に限度があることなどを考慮し、1カ月半から2カ月程度を目安とした年間6回の企画展を計画・開催しています。また、コレクションの魅力を紹介するために、所蔵品展および谷内六郎展をそれぞれ年間4回開催しています。

さらに、横須賀美術館では、美術への親しみ、理解を深めるために、講演会やワーク

ショップなど、年間を通じてさまざまな教育普及事業を展開しています。ここでは、広く一般向けの教育普及事業について、評価の対象とします。

これらの事業を企画・実施するための基礎が、調査研究です。範囲は、所蔵作品に関することを中心に、広く美術に関すること、教育普及に関することを含みます。

[一次評価の理由]

2年度の企画展は、一部中止になりましたが、親しみやすい作家の個展、地域ゆかりの現代作家の個展、独自のテーマで幅広い作品を集めた展示と、多岐にわたっていました。

「上田薫展」は、写真を使って対象を精巧に描き出す画家です。その描写はリアリズム絵画のなかに独自の位置を占めていますが、本展は上田薫の歩みを1960年代半ばから現在までたどった初の大規模個展でした。

「倉重光則+天野純治展」は、地域のゆかり作家であり、国際的にも活躍する二人の近・新作で構成した二人展です。写真、映像、絵画、インスタレーションと幅広い作品をご紹介します。倉重光則の野外インスタレーションも設置しました。またアーティストトークを撮影した動画を公開しました。

「ヒコーキと美術」は、1912年に追浜海岸で海軍による水上機の初飛行が行われており、その関わりから飛行機が私たちにあたえた影響について美術の視点から探っていきました。また関連展示として「横須賀海軍航空隊と秋水」を行いました。3月7日までは臨時休館でしたが、開館後は関心を持った方々が多く来館されました。

所蔵品展では、会期ごとに特集を組み借用作品も加えて、より魅力のある展示となるよう努めました。

第1期は中止となりました。

第2期では、第1期で予定していた特集「中村光哉」及び、当館で多数所蔵する戦後に抽象画家として活躍した「川端実」を特集しました。

第3期では、浦賀奉行所開設300周年記念事業として、文人画家として活躍した「長島雪操」(1818-1896)を特集しました。

第4期では特集として洋画家・島田章三(1933~2016)の初期から晩年の作品を展示しました。

谷内六郎館では、所蔵品展の会期と連動して、年4回の展示替えを行っています。1期は中止、2期では「新潮社とのお仕事 あれこれ」、3期は「ふくらむイメージ、あふれるユーモア」、4期は「花図鑑」として特集を組みました。

令和2年度は、企画展が一部中止となりましたので、広く市民の方々にご覧いただくことができませんでした。開館している時には、通常の展示に加え、YouTubeを通じて動画を配信したり、感染防止に努めながら図書室の運営も行っていました。総合的に考え、評価をBといたしました。

参考：

展覧会に関連した屋外事業の実施

タイトル	公開日
倉重光則インスタレーション《EBE》設置およびイルミネーション	11/14~12/23

展覧会の公開動画（当館 YouTube にて公開）

タイトル	公開日	再生回数 (2021年 7月末)
長沢明展 オワリノナイフーケイ 会場風景(前年度企画展)	8/21	367
所蔵品展「特集：川端実」他、谷内六郎館会場風景	8/23	591
上田薫展 紹介映像	9/10	936
☆★上田薫展 アーティストトーク「上田薫 制作と語り」	10/1	3,048
「倉重光則＋天野純治展 ミニマリズムのゆくえ」紹介映像	11/2	401
☆「倉重光則＋天野純治展」天野純治制作過程	11/14	384
★「倉重光則＋天野純治展」展示風景及びアーティストトーク	12/3	557
★「ヒコーキと美術」展示風景及び学芸員のギャラリートーク	2/12	427
所蔵品展「島田章三」会場風景	3/9	127

☆マークの映像は展覧会場でも上映。

★マークは下記教育普及事業でも表記しています。

教育普及事業（一般向け）の開催状況は、下表のとおりです。

展覧会関連の講演会、学芸員によるギャラリートーク、ワークショップ等はすべて中止しました。企画展が再開された9月以降は、中止した事業の代替えとしてオンラインでの動画公開等に取り組みました。4月26日に開設した公式 YouTube チャンネルを通じ、1年間に30本を超える動画を公開することができました。

講演会・アーティストトーク等

(単位：人)

タイトル	開催日	講師	参加
「宇都宮美術館コレクションによる マルク・シャガール」展 関連講演会「宇都宮のシャガールを横須賀で見る楽しみ」	中止	藤原啓（宇都宮美術館 学芸員）	0
「上田薫展」関連アーティストトーク ⇒動画公開	アーティストトーク「上田薫 制作と語り」 (2020年春～夏) 上田薫		
	ギャラリートーク「娘と妻が語る上田薫展」1～4 上田朱、上田葉子		
「倉重光則＋天野純治展 ミニマリズムのゆくえ」展 関連アーティストトーク ⇒動画公開	アーティストトーク「倉重光則＋天野純治展 ミニマリズムのゆくえ」 倉重光則、天野純治		
「ヒコーキと美術」展 関連講演会⇒動画公開	「ヒコーキと美術」会場風景 沓沢耕介（当館 学芸員）		
	「横須賀海軍航空隊と秋水」会場風景 中村貴		

	絵（当館学芸員）		
学芸員によるギャラリートーク	すべて中止	当館学芸員	0

展覧会関連ワークショップ

(単位:人)

タイトル	実施日	講師	参加
「宇都宮美術館コレクションによる マルク・シャガール」展関連ワークショップ「はじめてのリトグラフ」	中止	城戸宏（リン版画工房）	0

オトナ・ワークショップ

※2事業を計画していましたがすべて中止しました。

映画上映会

(単位:人)

タイトル	内容
冬のシネマパーティー『ローラ』⇒延期、その後中止⇒動画公開	シネマパーティー番外「ジャック・ドゥミ入門編」トーク キノ・イグラー

他課との連携

(単位:人)

タイトル	実施日	講師	参加
2020年度 横須賀市市民大学講座「上田薫展」を徹底解説！92歳の現役リアリズム画家の足跡を追う」（横須賀市生涯学習財団との共催。まなびかん）	9月25日	富田康子（当館学芸員）	43
「92歳の現役リアリズム画家・上田薫の足跡をたどる」（16ミリ試写室主催。横須賀市立中央図書館）	10月14日	富田康子（当館学芸員）	31

図書室については、美術史・デザイン・建築・写真など幅広い分野の美術図書、展覧会図録、所蔵作家に関連する資料、子ども向けの美術入門書、定期購読雑誌などを収集・公開し、多くの来館者に利用されています。室内環境の整備・維持に努め、レファレンスサービスやコピーサービスに対応し、図書室の利用を支援しています。

④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する

[一次評価]

達成目標	実施目標
F	B

【達成目標】中学生以下の年間観覧者数 22,000 人

[目標設定の理由]

子どもたちが美術館に親しみを持ち、利用しやすくするため、さまざまな取り組みを行い、その成否を観覧者数によって評価しています。

春～秋には、子どもや家族層にも親しみやすい企画展を1つ以上開催することとし、目標達成のための契機としています。令和2年度は、夏季に開催する画家・絵本作家ミロコマチコ氏の展覧会において、家族・子ども層に向けた取り組みを積極的に進めます。

ただし、ミロコマチコ氏の支持層は、令和元年度に多くの幼児に支持されたせなけいこ氏と比べ、高めの年齢であると見込んでいます。このため、令和2年度の本項の目標値は、昨年と同じく 22,000 人が妥当であると考えます。

[一次評価の理由]

令和2年度の中学生以下の年間観覧者数は5,789人で、目標を達成できませんでした。観覧者数が大幅に減少した理由としては、小学校鑑賞会の中止に加え、中学生以下の観覧者数の最も多い時期に、感染症の影響で通常開館できなかつたことがあげられます。具体的には、夏季休暇中と重なる7、8月に企画展がなく常設展のみでの開館であったこと、また、児童生徒造形作品展の会期が3日間に短縮されたことなど集客要素そのものがなかつたため、評価をFとしました。

中学生以下の観覧者数

(単位：人)

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
幼児	11,562	5,246	12,636	1,484
小学生	12,335	11,748	14,814	3,210
中学生	3,448	3,811	4,023	1,093
計	27,345	20,805	31,473	5,789

【実施目標】

- ・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。
- ・学校及び関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。
- ・学校との連携を強化し、小学生美術鑑賞会を充実させる。
- ・美術館を活用した鑑賞教育がいっそう充実するよう、先生のための美術館活用講座をはじめ、教員の授業作りに有益な情報提供を積極的に行う。
- ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。
- ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。

【目標設定の理由】

- ・観覧者数の面では、その年度の展覧会の内容に左右されがちな項目ですが、実施目標の面では、年間を通じた取り組みによって、展覧会の内容にかかわらず、子どもにも親しみやすい美術館であるとの評価が得られるよう努めています。
- ・子どもや家族層に向けた取り組みとともに、学校連携を重視しています。
- ・学校連携では、学校による美術館活用の推進、鑑賞を通じた言語活動の充実、校外での児童の作品展（小中学校）など、図工・美術の学習指導要領を踏まえ、具体的な取り組みを進めています。また、教員のニーズを把握するよう努めています。
- ・学校とは違った美術館ならではのプログラムを提供し、子どもたちが美術に親しむ機会を拡充することも重要です。家族で参加する鑑賞教室やワークショップ、アーティストによる子ども向けワークショップなどにも力を入れていきます。

【一次評価の理由】

小学校鑑賞会の中止、児童生徒造形作品展の会期の大幅短縮により、学校連携の軸となる活動で成果を上げることができませんでした。また、休館や企画展中止等の影響により、展覧会関連の子ども向け事業もすべて中止としたため、活動そのものが大幅に縮小しました。しかし、全般に、可能な範囲での最小限の活動の中で、最大限の成果を上げることができたと考え、B評価としました。

オンラインでの鑑賞支援の試みとしては、HP上で「Webで楽しむ横須賀美術館」のページを早期に構築し、「横須賀美術館アートカード Web版」の紹介と、「横須賀美術館のコレクションであそぶシート」の公開を行いました。アートカードは、児童の自宅学習でも活用されるなど、一定の反響がありました。

ワークショップでも、オンラインでの開催を試み、今後に向けたWeb活用のノウハウを蓄積しています。

令和2年度に開催した子ども向け事業とその参加者

子ども向けワークショップ	8回の計画のうち 2事業開催 ※1	参加者数51人 (保護者を含む)
子ども向けギャラリートーク	中止	0
夏の野外シネマパーティー	2日間開催(ただし室内、定員・事前申込制)	参加者数41人
児童生徒造形作品展の開催	休館により会期短縮(3日間)	観覧者数7,196人
小学生美術鑑賞会	中止	0
中学生のための美術鑑賞教室	ツアーは中止	参加者数198人 (保護者を含む)
市立中学校の職業体験受け入れ	中止	0
先生のための美術館活用講座	中止	0
市立保育園10園対象の鑑賞プログラム ※2	市立保育園9園	参加者数154人 (5歳児)
市外学校等へのアートカード貸し出し		0

※1 おやこワークショップ2事業を開催し、うち1回はオンライン開催と組み合わせて開催しました。

※2 10園で実施予定でしたが1園が中止となりました。また、感染症拡大防止の観点から出前プログラムを中止しました。

⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	B

【達成目標】 環境調査の実施（年2回）
美術品評価委員会の開催（年1回）

〔目標設定の理由〕

作品収集は、美術館としての基本的な活動のひとつです。ただし、新規収蔵作品の数量の多寡は、状況に左右される部分が大きく、また、多ければ多いほどよい、という性質のものでもないため、数値目標とするにはふさわしくないと考えます。

収集のための情報収集や調査を継続的に行っていれば、受け入れの可否を諮問するために美術品評価委員会を開催することとなります。ここでは、少なくとも年に1回、美術品評価委員会を開催することを、収集活動に関する数値目標とします。

また、収蔵庫と展示室の環境が作品の保管、展示に適しているかどうか調べる環境調査を、年2回実施することを、保管に関する数値目標とします。

〔一次評価の理由〕

環境調査について、5月12日～6月11日、7月20日～8月31日の日程で2回実施しました。

また、例年より早く、10月1日に当年度の美術品評価委員会を開催しました。前年度の委員会を3月に予定していたところ、新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催中止としていたことから、保留となっていたものとあわせ、200点以上の作品・資料を審議対象としました。

目標を達成したため、一次評価はAとしました。

【実施目標】

- ・ 収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。
- ・ 適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。
- ・ 計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。
- ・ 所蔵作品が広く価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。

【目標設定の理由】

すぐれた美術作品をひろく収集し、次世代に伝えていくことは、美術館の果たすべき基本的な役割です。そのために、保管のための適切な環境整備と、作品そのものの修復および保護を行っています。他の機関での展示等の所蔵品の活用は、作品への影響を十分に考慮したうえ、可能な範囲で行っています。

【一次評価の理由】

令和2年度は、寄贈作品・資料18件204点を受け入れました。この中には、若林奮による屋外設置作品《Valleys》に関連するドローイング類160点（うち8点はテキスト原稿等の資料）、朝井閑右衛門が横須賀に定住するきっかけをつくった医師・副島昇との交流を示す副島家旧蔵資料8件34点等が含まれています。また、横須賀市役所内の他部課より日本画1点・油彩2点を所管替として受け入れ、美術館図書室資料より1件を改めて美術作品扱いに変更しました。また、昨年度設けた「美術品等取得基金」に対し、「ふるさと納税」等を通じて寄せられた寄附金を原資として、購入により美術品を取得するための具体的な検討を行いました。

環境調査について、収蔵施設では、例年とほぼ同じ良好な結果が得られました。一方で、展示室を含む広範囲で昆虫類の侵入がみられました。特に7月末から8月にかけての調査では、カビの指標虫であるチャタテムシの増加、収蔵施設での有機酸値の上昇など異状がみられます。今後も動向を注視しながら、空調、清掃をはじめとする環境管理を継続して実施します。

修復・額装について、展示する機会の多い油彩作品を中心に、固定状態の改善を目的として額の改修をおこないました。あわせて、映り込みの甚だしい作品については、画面を保護するアクリル板を低反射タイプのものに交換しました。また、当年度寄贈を受け入れた若林奮によるドローイング類80点について、展示活用と保存を目的としてブックマット装を施しました。

他の美術館等で企画された展覧会9件、のべ84点の貸出を予定していましたが、そのうち2件8点については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で展覧会自体が開催中止となり、実際には貸出を行いませんでした。実施したのは、7件76点です。群馬県の富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館で開催された谷内六郎展に対しては、所蔵する週刊新潮表紙絵作品60点を貸出しました。

所蔵作品を適切に管理していくためには、日々、実際に作品と向き合って点検することが不可欠です。しかしながら、年度当初のおよそ2か月間は、職員の出勤が抑制され、その間、収蔵品や施設がほとんど人目にさらされない状況が続きました。虫害防除や、所蔵作品の修復計画についても、例年に比べ、検討が十分だったとはいえませんでした。一方で、長年の懸案であった作品購入の再開について、実現の道筋がつけられたことは前進といえます。以上のことから、一次評価をBとしました。

[次年度への課題]

- ・必要な段階を経て、実際に購入により美術品を取得します。
- ・展示室内の環境改善のための具体的な対策を検討します。
- ・所蔵作品の現況調査を進め、展示計画を考慮した適切な修復・額装を行います。

Ⅲ 訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】

- ・館内アメニティ満足度 90%以上
- ・スタッフ対応の満足度 80%以上

【目標設定の理由】

- ・達成目標の適正基準として、それぞれ90%以上、80%以上を設定しました。
この目標値は、過去の実績を参考に、目標を高く持ちつつも達成が決して不可能ではないと思われる数値であり、言い換えれば、目標値の達成イコールかなりの高水準を維持できていると思われる数値としました。
- ・満足度は、来館者アンケートの質問8項目（アクセス、館内印象、静かさ、スタッフ、休憩所、トイレ・授乳室、清潔感、総合）の内、外部要因や展覧会等の企画内容による影響を受けにくい2項目（スタッフ、総合）を指標として使用しています。
- ・館内アメニティ満足度については、来館者アンケートの質問事項「全体的にみて、館内では気持ちよく過ごせた。」に対する満足度（総合満足度）、スタッフ対応の満足度については、来館者アンケートの質問事項「スタッフの対応・案内は適切だった。」に対する満足度を指標としています。
なお、原因を究明し改善に役立てるため、24年度から5段階評価に加え、「特によかったところ、よくなかったところ」を具体的に記述していただく欄を設けています。

〔一次評価の理由〕

館内アメニティ満足度、スタッフ対応の満足度はともに高水準で推移しています。館内アメニティ満足度については、平成30年度に続き目標を達成しており、スタッフ対応の満足度についても高水準で目標を達成しています。

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
館内アメニティ満足度	92.8%	95.1%	93.5%	95.7%
スタッフ対応の満足度	86.8%	88.5%	88.1%	92.9%

館内アメニティ満足度に関して、「混雑時の入場制限が実施されていたため、安心して観ることができた」などの、当館の感染症対策についてのご意見が増えました。

なお、来館者に対して入口における検温やアルコール消毒といった感染症対策をお願いしていますが、スタッフの対応及び適切な器具選定等により苦情にはつながって

いません。

一方で施設の劣化は年々進んでおりますので、安全性と美観を維持し、お客様が気持ち良く過ごすことができるよう、改善に向けて今後も工夫を重ねていきます。

【実施目標】

- ・ 建築のイメージを損なわないよう、十分なメンテナンス、館内清掃を行う。
 - ・ 受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。
 - ・ 運営事業者と協力して、付帯施設（レストランおよびミュージアムショップ）を来館者ニーズに応じて運営する。
-

【目標設定の理由】

- ・ 横須賀美術館が来館者に好ましい印象を持たれている大きな要因の一つは、周囲の豊かな自然と、その風景と調和したユニークな建物です。しかし、海のそばに立地しているため、強い風雨にさらされることも多く、また塩害などによる老朽化が進んでいることも事実です。建築の魅力をいつまでも来館者に伝えていくためには、適切なメンテナンス、清掃を継続していくことが重要です。
- ・ また、スタッフの対応によって、美術館に対する印象は大きく左右されますので、受付・展示監視スタッフ等の受託事業者との緊密な連携を図り、来館者の立場に立ったより良い接客を目指します。
- ・ 美術館を訪れた際の買い物や食事も、来館者の大きな楽しみです。レストランおよびミュージアムショップと連携し、来館者のニーズに即応したサービスの提供がなされるよう、知恵を出し合い、工夫を重ねていきます。

【一次評価の理由】

(メンテナンス)

- ・ 本館外回りのガラスを支えるサッシの腐食が目立ち、耐久性と美観に問題があったため、塗装工事と一部建具の改修を行い、環境の維持に努めました。
- ・ 本館ガラス屋根のうち、一部破損している3枚の交換修理を行いました。

【令和2年度の主な修繕（100万円以上の案件を抽出）】

区分	案件	金額（円）
施設	本館建具塗装改修工事	17,235,000
	本館屋上屋根ガラス交換工事	13,913,000

(清掃)

- ・日常の清掃について、利用状況に応じて重点を移す効率的な清掃を心掛けています。

(受付・展示監視)

- ・受付や展示監視に従事するスタッフは、来館者と直に接するためクレームの対象となりやすい立場にあります。特に展示監視は、展示物に触ろうとする来館者や迷惑行為をしている来館者への注意などを行うため、クレームを受けやすい業務です。年に数件のクレームはありますが、受託事業者の自助努力（研修、スタッフの入替など）や、館内における情報の共有化の促進によって日々改善の努力を続けており、満足度の数値も一定以上の水準に達しています。
- ・情報の共有や、来館者への対応方法の指示などをきめ細かく行う目的で、来館者からのクレーム内容や対応の記録を日報として毎日提出するよう、平成21年度より展示監視スタッフに義務付けています。
また平成26年10月の受託事業者変更時から受付スタッフにも日報の提出を義務付けており、課題が生じた場合に迅速に対応する事ができるようにしています。
- ・現在の受託事業者においては、社内講師による研修や外部講師による接客マナー研修を実施するとともに、事業者独自の覆面調査員による接客チェックも行なわれており、その結果はスタッフ対応の満足度向上となって現れていると考えられます。

(ミュージアムショップ)

- ・利用者アンケートの満足度が向上するよう、定期的な打合せを実施し事業者と協力しています。

(レストラン)

- ・メニューの見直しなど運営事業者の自助努力により満足度はかなり向上しています。満足される理由としては、「質の高い食事」「おいしい」のほか、「景色がよい」ことも挙げられています。
- ・企画展ごとに、展示のイメージや内容に合わせた「コラボレーションメニュー」を考案して提供しており、好評を博しています。
- ・顧客のストレスを軽減するため、土日祝日の混雑時（12時～15時）については事前予約をとらず、先着順に対応しています。

(災害への備え)

- ・例年通り年2回の防災訓練を実施しました。避難経路の確認および誘導に重点を置いた実践に即した内容で、受付展示監視をはじめ事業者のスタッフも参加して充実した訓練となりました。

(その他)

- ・平成21年度より、毎月1回、レストラン、ショップ、受付展示監視、警備、広報、総務、学芸の参加による運営事業者連絡会議を開催し、館内で起こっている諸問題について情報共有、改善の提案、検討を行なっています。平成26年度からは設備日常監視業務の受託事業者も参加しています。

⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
F	B

【達成目標】 福祉関連事業への参加者数延べ 320 人以上

〔目標設定の理由〕

福祉関連の事業は、内容の充実を図るために対象や参加人数を限定する場合があります、そうした場合は参加者数が減ることとなります。しかし、限定したからこそ、対象の特徴に応じたプログラムの計画実施が可能となり、普段美術館を利用しにくい方でも参加することができる事業を行うことができます。

このため、福祉関連事業は、その年の事業の性格次第で参加者数の増減が大きくなります。そこで、過去の事業内容と参加者数、令和元年度の事業内容を考慮し、320人以上を令和2年度の目標値とします。

〔一次評価の理由〕

令和2年度の福祉関連事業は、「みんなのアトリエ」、イベント（ワークショップ、出張鑑賞会）など、障害当事者の方を対象としたすべての事業を中止しました。また、海外から講師を招聘して行う予定だった講演会も開催できませんでした。ほとんどの事業自体が中止となった状況であるためF評価としました。

福祉関連事業への参加者数

(単位：人)

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
福祉関連講演会	12	22	48	中止 ⇒報告書
福祉関連イベント	37	41 14	62	8 ※1
			14 ^{※1}	
			— —	
他館連携(MULPA)	133	55		
みんなのアトリエ (障害児者向けワークショップ)	197	255	191	中止 ⇒動画
未就学児ワークショップ	33	39	—	※2
計	435	426	315	8

- ※1 福祉関連イベント（1事業分）と他館連携事業の予算を合わせた福祉作業所対象のワークショップおよび出張鑑賞会の2事業を企画しましたが、感染症対策のため計画を変更し、福祉作業所スタッフ向けワークショップ1回のみを開催しました。
- ※2 未就学児ワークショップは令和2年度より年齢の枠を拡大し、④に分類しています。

【実施目標】

- ・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う。
- ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。
- ・展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向けの託児サービスについて、積極的に周知し、利用しやすい内容で実施する。

[目標設定の理由]

- ・各種事業を通じて、美術館が健常者のみの施設ではないこと、障害の有無に関わらず美術を楽しむこと、また各年齢や状況に応じた楽しみ方があることを伝えていくことが重要です。
- ・設備や什器を新規に導入することは難しいため、対話鑑賞のような人的対応によるプログラムを充実させることによって、福祉の充実につなげたいと考えています。
- ・障害者等のニーズを、職員が実践を通して知ることによって、次年度以降の取り組みや長期計画に活かします。
- ・子どもを持つ方が安心して美術館事業に参加できるよう、託児サービスを行っています。平成30年度より、託児の利用者数を目標値に含めないこととしましたが、託児は引き続き実施されます。乳幼児を持つ人が、それによって美術館利用を妨げられることのないよう、令和2年度も引き続き、適切に託児を実施するとともに、そのための周知に努めることとします。

[一次評価の理由]

障害当事者の方の参加が難しい中、代替えとなる事業ができないか工夫を重ね、一定の成果物を公開することができたためB評価としました。

「みんなのアトリエ」は、自宅でできる創作活動をテーマに、手に入りやすい材料を使ったオンライン版「おうちでできる「みんなのアトリエ」」シリーズを4本の動画として公開することができました。

福祉講演会は、予定していた海外からの講師の招聘が困難で中止としましたが、これまでの福祉講演会の経緯をまとめたレポートを作成し、HPで公開しました。

また、福祉関連イベントは、昨年度に続き障害福祉課と連携して福祉作業所スタッフ向けのワークショップを開催することができました。この活動は今後も継続的に行っていく計画で、空白期間を作らずに開催できたことは重要と捉えています。

⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する

[一次評価]

達成目標	実施目標
F	A

【達成目標】 電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近3年間の平均値を目安とする。

[目標設定の理由]

- ・電気料、水道使用料は、美術館の総事業費の約2割弱を占めることから、達成目標を定め管理していく必要があります。
- ・職員が努力した効果を目に見えて感じることができるよう、電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を、直近3年間（H29～R1）の平均値を目安とします。これらの使用量は、気候や来館者数等の外的要因によって大きく変動するため、個々の数値目標の達成にこだわるよりも、増減の原因分析をとおして状況把握に努めるための目安値とします。

[一次評価の理由]

	H29	H30	R01	R02 (目標)	R02 (実績)	達成率
総電気使用量(kWh)	2,539,289	2,625,210	2,569,838	2,578,112	2,186,586	1.18
水道使用量(m ³)	4,608	4,635	4,908	4,717	3,464	1.36
事務用紙使用枚数(枚)	259,550	226,500	240,000	242,016	188,200	1.29

電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数すべて直近3年間の平均値を下回りました。目標数値を下回った理由としては、新型コロナウイルス感染症への対策に伴う美術館の臨時休館および4月～6月に行われた職員の在宅勤務が挙げられます。したがって、年間を通じた比較ができないことから、F評価としました。

【実施目標】 職員全員が費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。

[目標設定の理由]

- ・サービスを低下させず経費を削減しスリムな運営体制を目指すためには、職員全員が費用対効果を常に意識した行動が必須であると考え、実施目標としました。

[一次評価の理由]

- ・各業務の予算執行時には、複数業者からの見積書徴収や競争入札を行うなど、業務の質を担保しつつ最も少ない経費で業務を執行し、経費削減を実現しています。

具体的な内容の主なものは、次のとおりです。

- ・事業者選定においては、定められた基準等により契約額及び契約先は入札によって決定します。特定の業者でなければ実施できない業務を除いて見積り合せを行っています。この結果、事業の質を担保しつつ最も少ない経費で業務を実施しています。
- ・展覧会関連の出張については、スケジュールをまとめ、出張経路を最短に設定し、経費を削減しています。
- ・一部の案内パンフレットについては、印刷業務委託ではなく、手刷りで作成することで、より少ない経費で業務を執行しています。
- ・事務用品についても在庫の整理を実施しながら、必要な物の調達を行っています。

[次年度への課題]

- ・電気使用量や水道使用量は天候や観覧者数等に影響される傾向がありますが、他方で職員の業務執行においては無駄な使用を控えるという意識を持ち続けるように、定例会議等で啓発を行います。
- ・業務執行において経費を節減することは当然ですが、同じ費用の中で最大限の効果を発揮できるように、計画段階や業務執行の中で継続して考えていきます。